



東京都立多摩桜の丘学園学校だより

さくらちゃんNews



令和6年1月15日発行第11号
多摩市聖ヶ丘1-17-1
電話 042-374-8111
発行者 統括校長 丹野 哲也

心を開く言葉を育てる

校長 丹野 哲也

能登半島地震により、亡くなれた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。現在も、懸命な救助・復旧活動が続けられています。一日も早い復興をお祈りしております。

さらに、能登半島地震への救援物資を運搬する予定であった航空機と旅客機の羽田空港での衝突事故では、5名の海上保安庁職員の方が殉職するという、心痛な事故が生じました。旅客機乗客乗員全379名の方々が、事故発生直後に機外への緊急避難ができたことは、「奇跡」と称される一方で、90秒で避難を遂行するための乗務員による緻密な訓練があったことなどが報道されています。このことは、学校の危機管理に転じれば、日々の避難訓練や積み重ねが肝要であるということにほかなりません。今後も教職員一同、児童・生徒の安全と安心のため、危機管理に取り組んでまいります。

さて、「3学期は、去る」と言われるほど早く感じ、授業日は、43日前後となります。一方で、卒業や進級に向けて最も大事な時期でもあります。1年間のまとめをじっくり行い、来る新年度に向け、成果を褒め新たな課題を見つけ一歩前進していきましょう。

この3学期は、児童・生徒の皆さんが「誠心誠意で取り組む」ということを大切にしていきます。特に、簡単と思えること、すぐにできそうだと思えるものほど、自分の真心や気持ちを込めて、率先して行いたいものです。その中でも一番大切にしたいことは、「挨拶」です。始業式の冒頭でも、校長先生の話として子供達に『桜の丘の「あいうえお」』の話をしました。「おはよう」、「こんにちは」の挨拶で、人と人の心の扉が開かれていきます。元気の良い挨拶は、挨拶を交わした相手の気持ちをよくします。自然と笑顔が増えていきます。本校は、全校をあげて地域に積極的に教育活動の場を求めてきました。授業作りにも多くの地域団体のお力添えをいただいています。地域の方から、本校の児童・生徒の訪れを楽しみにしている、という言葉をいただいたと聞き及んでいます。子供達から発せられる真心をこめた言葉や挨拶には、多くの方々に元気を与える力があると確信しています。

児童・生徒一人一人が、めあてや目標をもって、主体的・意欲的に学びを深めることができるよう、学校経営に誠心誠意取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

○世界で活躍されるメジャーリーガー大谷翔平選手から、本校の両部門と分教室に「サイン入りグローブ」の寄贈が

ありました。グローブは、大・中・小の3サイズが1セットで右・左利き用です。早速、小学部の子供たちが、思い思いにグローブを手にしたときには、あふれる子供たちの笑顔がありました。子供たちに大きな夢を与えてくれましたことに感謝です。大谷選手からのお手紙の最後に、「野球やろうぜ!!!」という子供たちへのメッセージが添えられていました。

桜の丘の「あいうえお」

- あ いさつて
- い いきもち
- う んどう大すき
- え がおで いつも
- お もいやり

